

都市再生整備計画(精算報告)

さらくら かわちちく
皿倉・河内地区

ふくおか きたきゅうしゅう
福岡県 北九州市

都市再生整備計画の目標及び計画期間

都道府県名	福岡県	市町村名	北九州市	地区名	皿倉・河内地区	面積	950 ha
計画期間	平成 18 年度	～	平成 22 年度	交付期間	平成 18 年度	～	平成 22 年度

目標

大目標：都市部に隣接する皿倉・河内地区の豊かな自然環境資源の活用により、観光振興を促進するとともに市街地と連携した賑わいづくりを進め、都市の活性化を推進する。

目標１：市民が気軽に立ち寄れるレクリエーションエリアとして、地域住民の生活の質の向上と心身の健康づくりの場を創出する。

目標２：緑豊かな湖水景観や山頂からの眺望や夜景など、自然環境資源を観光振興ツールとして活用し地域経済の活性化を図る。

目標３：皿倉・河内地区を観光拠点として創出するため、地区内施設の一層の利用促進に向け交通アクセスの充実や回遊性の向上により滞在時間の長時間化を

目標４：地域住民や民間ボランティア団体との連携を強化し、地域資源を有効活用しながら思いやりのある観光地づくりを推進する。

目標設定の根拠

まちづくりの経緯及び現況

- ・皿倉山頂（標高622m）周辺地区は、昭和42年に林野庁の自然休養林に指定され、昭和47年には北九州国定公園（皿倉地区）に指定されるなど都市部に隣接する豊かな自然環境を備えたこれらの地区は、自然保護運動や屋外レクリエーションの高まりの中で市民レクリエーションの中心地として多くの人で賑わった。しかしながら、レジャーが多様化するにつれ徐々に皿倉山周辺を訪れる人も減少し、平成13年に皿倉山頂への主要な交通手段となるケーブルカーをリニューアルしたものの一時的な増加に留まり減少傾向が続いている。また、平成18年3月末には44年間営業を行っていた国民宿舎山の上ホテルの閉鎖も予定されている。
- ・河内地区では、昭和2年に完成し周囲8kmの河内貯水池を中心に、昭和50年代までは春の桜、夏の緑、秋の紅葉、白鳥のいる湖水景観として行楽客で賑わっていたがレジャーの多様化や桜の枯死とともに賑わいが失われていった。その後、湖畔を巡るサイクリング道路の整備とともに、平成12年には公設民営型の河内温泉（あじさいの湯）を整備し市民利用等に努めてきたが、アクセス道路の幅員の狭さやカーブが多いなど快適性に欠ける道路構造等によりかつての賑わいが取り戻せない状態である。
- ・このように市民レクリエーションの中心地であった皿倉・河内地区は、施設の全般的な老朽化に加え交通アクセスの悪さなども影響し、隣接する八幡東区市街地の賑わいの減少とともに衰退傾向にある。そのため、これらの地区の自然環境資源に再び光を当て、市民レクリエーションエリアとして或いは観光地として再生を目指すものである。

課題

- 市街地に隣接し気軽に訪れることができる自然環境を有しながら、これらの特色が活かされていない。
- ・皿倉山頂からの眺望の良さとともに夜景は新日本三大夜景に選定されるなど、潜在的な資源に加え奥深い自然の魅力も備わっているにもかかわらず、時間をかけて楽しむような施設整備が行われていない。老朽化の進んでいる山頂施設の再整備を行うなど長時間滞在型、ひいては宿泊型へ移行させる措置が必要である。
- ・山麓から皿倉山頂へのアクセスとなるリフトはバリアフリー化されていない。また、河内地区へ連絡する道路はカーブが多く幅員も狭いなど観光地としての施設整備が不十分で、観光地再生に向けては交通アクセスの充実が必要である。
- ・皿倉山頂一帯では民間ボランティア団体による案内等が行われているが、集客のための山頂イベントの開催や案内サービスなど、リピーター確保に向けたおもてなしのための施設整備や仕組みづくりが必要である。

将来ビジョン（中長期）

皿倉・河内地区の豊かな自然を生かした都市の奥深い魅力づくりを行い、市街地との連携による自然環境型観光拠点の創出

目標を定量化する指標

指 標	単 位	定 義	目標と指標及び目標値の関連性	従前値		目標値	
					基準年度		目標年度
観光入込客数	万人/年	観光動態調査に基づく皿倉・河内地区への観光入込客数	観光地としての魅力向上に努め、観光入込客数の増加を図る。	55.2	平成16年度	70	平成22年度
宿泊観光客数	万人/年	観光動態調査に基づく皿倉・河内地区への観光入込客数	滞在の長時間化に努め、宿泊客数の増大を図る。	3.8	平成16年度	5	平成22年度
観光消費額	億円/年	観光動態調査に基づく皿倉・河内地区関連の観光消費額	自然型観光地の再生を通して、観光消費額の増加を図る。	29	平成16年度	37	平成22年度
皿倉山頂でのイベント集客数	千人/年	帆柱ケーブル(株)の集計に基づくイベント時の山頂への入込客数	皿倉山頂周辺の多彩なイベント開催に伴う、集客の増加を図る。	37	平成16年度	44	平成22年度

都市再生整備計画の整備方針等

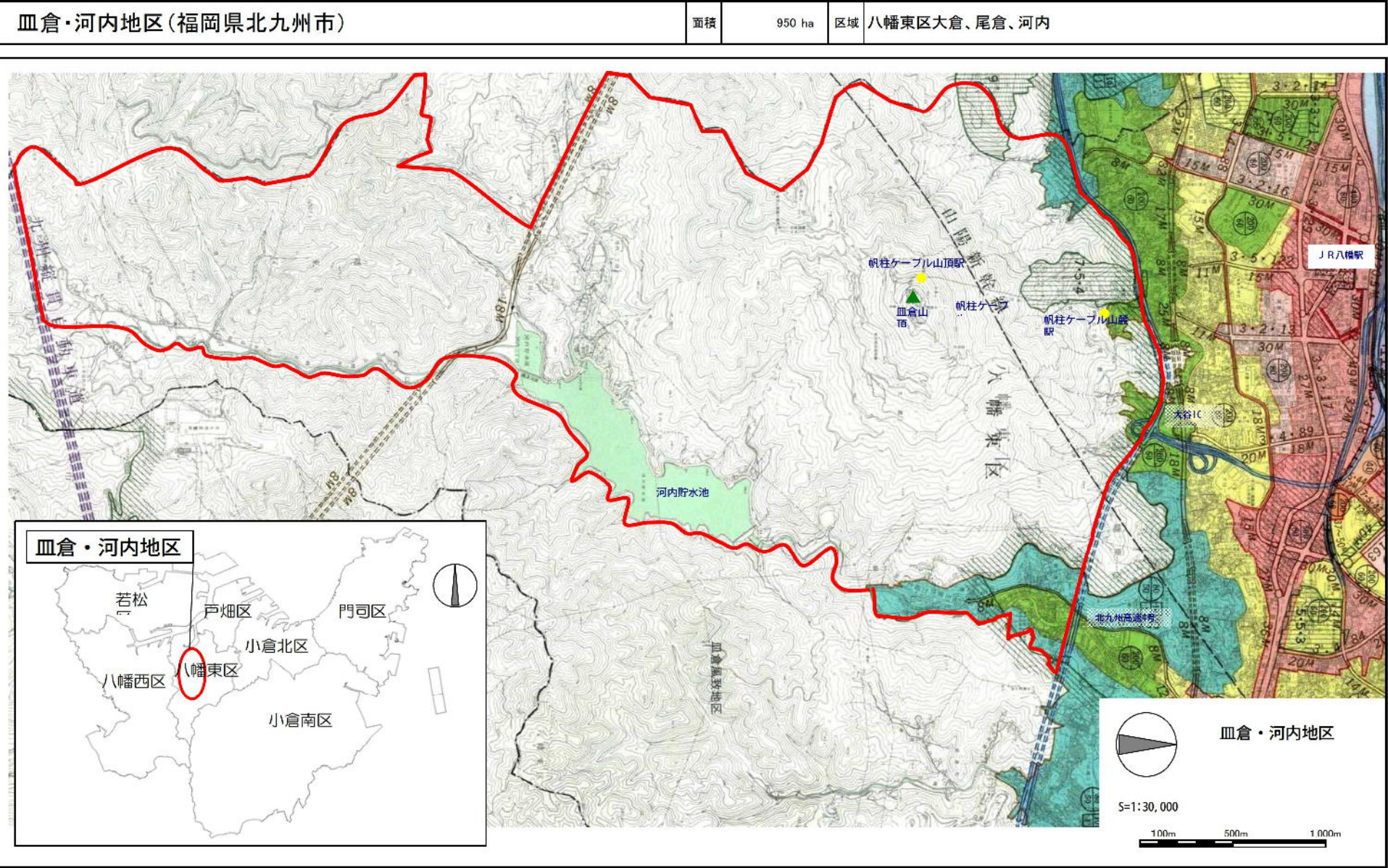
計画区域の整備方針	方針に合致する主要な事業
整備方針1(地域住民の生活の質の向上と心身の健康づくりの場の創出) ・多様な楽しみ方につながる散策路の整備や施設の説明版・案内板、休憩やトイレなどの利便施設の整備などにより、市民が楽しみながら健康づくりを行えるための基盤づくりを行う。 ・山頂一帯を訪れた人が、自然環境に理解を深めつつ学習や体験を通して心身をリフレッシュするための施設整備を行う。 ・市民が安全快適に心身の健康づくりの場として利用できるよう衛生施設等の改修を行う。	・ビジターセンターの整備(基幹事業／既存建築物活用事業) ・河内温泉施設改修(提案事業／地域創造支援事業)
整備方針2(滞在の長時間化や回遊性を高める山頂施設の整備) ・100億ドルと言われている皿倉山頂からの夜景や360度の眺望を誰でも気軽に楽しめるための交通アクセスの整備、展望施設や山頂広場の整備など、施設の充実やバリアフリー化を進め市街地観光施設との回遊性による滞在の長時間化や宿泊滞在による観光消費額の拡大を目指す。 整備方針3(交通アクセスの整備による利便性や回遊性の向上) ・市街地と山間部の連携による賑わいづくりを行うため、道路整備や皿倉山頂へ連絡するリフト代替機の整備を行う。 ・市街地の観光施設や宿泊施設と、皿倉・河内地区を連絡する観光モデルコースの開発や当該地区へ誘導するための案内標識等の整備を行う。	・帆柱自然公園(基幹事業・提案事業／公園) ・(帆柱尾倉1号線/北九州小竹線/大字大蔵27号線/小倉中間線 / 鱈淵八幡東自転車道線)の整備(基幹事業／道路) ・(提案事業/まちづくり活動推進事業/皿倉夜景観光バス運行)
整備方針4(イベントの開催や市民活動の支援) ・持続性のある観光地づくりを進めるためには、起爆剤となる当該地ならではの集客イベントの開催が必要であり、リピーター対策として年間を通したイベントの開催に取り組む。 ・豊かな自然環境を切り口にした賑わいのまちづくりを進めるためには、施設整備だけでなく、また行きたくなるようなおもてなしの仕組みづくりが必要である。そのため、地域住民や公園愛護会等が積極的に活動できる場や仕組みが必要であり、ガイドラインの作成や自然体験学習等の活動運営の支援を行う。	・自然体験学習等推進事業(提案事業／まちづくり活動推進事業) ・賑わいづくりイベントの実施(提案事業／まちづくり活動推進事業) ・皿倉山新緑ウィークPR事業(提案事業／まちづくり活動推進事業)
その他	

交付対象事業費	1,041.7	交付限度額	416.6	国費率	0.4
---------	---------	-------	-------	-----	-----

事業	細項目	事業箇所名	事業主体	直／間	規模	(参考)事業期間		交付期間内事業期間		(参考)全体	交付期間内		うち官負担分	うち民負担分	交付対象事業費
						開始年度	終了年度	開始年度	終了年度	事業費	事業費				
道路		帆柱尾倉1号線	北九州市	直	390m	H18	H22	H18	H22	123.5	123.5	123.5			123.5
		北九州小竹線	北九州市	直	3,600m	H18	H22	H18	H22	141.6	141.6	141.6			141.6
		大字大蔵27号線	北九州市	直	232m	H18	H22	H18	H22	80.0	80.0	80.0			80.0
		小倉中間線	北九州市	直	230m	H18	H20	H18	H20	24.0	24.0	24.0			24.0
		鶴瀬八幡東自転車道線	北九州市	直	1,500m	H20	H22	H20	H22	11.0	11.0	11.0			11.0
公園		帆柱自然公園	北九州市	直	50ha	H18	H22	H18	H22	417.9	417.9	417.9			417.9
河川															
下水道		—			—										
駐車場有効利用システム		—			—										
地域生活基盤施設															
高質空間形成施設															
高次都市施設															
既存建造物活用事業		ビジターセンターの整備	北九州市	直	790㎡	H18	H22	H18	H22	28.1	28.1	28.1			28.1
都市再生交通拠点整備事業															
土地区画整理事業															
市街地再開発事業															
住宅街区整備事業															
地区再開発事業															
人にやさしいまちづくり事業															
優良建築物等整備事業															
住宅市街地	拠点開発型														
総合整備	沿道等整備型														
事業	密集住宅市街地整備型														
	耐震改修促進型														
街なみ環境整備事業															
住宅地区改良事業等															
都心共同住宅供給事業															
公営住宅等整備															
都市再生住宅等整備															
防災街区整備事業															
合計										826.1	826.1	826.1	0.0		826.1
提案事業															
事業	細項目	事業箇所名	事業主体	直／間	規模	(参考)事業期間		交付期間内事業期間		(参考)全体	交付期間内		うち官負担分	うち民負担分	交付対象事業費
						開始年度	終了年度	開始年度	終了年度	事業費	事業費				
地域創造		西河内線林道	北九州市	直	4,745m	H18	H22	H18	H22	0.0	0.0	0.0			0.0
支援事業		(旧)山の上ホテル解体・整備	北九州市	直	310㎡	H18	H18	H18	H18	20.2	20.2	20.2			20.2
		帆柱自然公園	北九州市	直	138㎡	H18	H18	H18	H18	59.4	59.4	59.4			59.4
		河内温泉施設改修	北九州市	直	6,645㎡	H19	H21	H19	H21	70.0	70.0	70.0			70.0
事業活用調査		—			—										0
		—			—										0
		自然体験学習等推進事業	市	直	—	H18	H22	H18	H22	35.7	35.7	35.7			35.7

[illegible]

都市再生整備計画の区域



皿倉・河内地区（福岡県北九州市） 整備方針概要図

目標	都市部に隣接する皿倉・河内地区の豊かな自然環境資源の活用により、観光振興を促進するとともに市街地と連携した賑わいづくりを進め、都市の活性化を推進する。	代表的な指標	観光入込客数（人/年）	552,000（16年度）	→	700,000（22年度）
			宿泊観光客数（人/年）	38,000（16年度）	→	50,000（22年度）
			観光消費額（億円/年）	29（16年度）	→	37（22年度）

